

横浜市立 日吉台西中学校

学校評価報告書

(令和 4 ~ 6 年度)

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①全教科を通して個に応じた指導を展開し基礎学力の定着強化を図ります。 ②グループ学習や課題解決学習を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。 ③行事などを通してより豊かに自己表現する力を育てます。 ④自己評価等を行い、自己認識から自己調整・自己実現に向けていきます。	○研究授業を初任、中堅の職員と2回実施し、個々に応じた主体的学習の定着を図ることができた。 ○各教科、感染症防止対策をしながら、グループ活動を取り入れて学習することで、思考力、判断力、表現力の向上を図ることができた。 ○行事を通して、事前や事後学習でプレゼンテーションを活用し、自己表現の向上を図ることができた。	B
豊かな心	①生徒の実態と発達段階を考慮しながら、道徳の授業計画・指導計画を立て、指導方法を工夫して効果的な学習を進めます。 ②人権教育の推進のために職員研修の充実を図り、人権講演会や人権作文に全校で取り組みます。 ③ブロック内の二つの小学校と連携を図りながら、系統性や継続性のある人権教育の推進を図ります。 ④生徒会活動を通して、自主的、実践的な活動ができる生徒の育成を目指します。	○道徳の授業計画・指導計画を基に、指導方法について学年で検討し、公開授業を行った。 ○パラアスリートを講師に招き、全学年で人権講演会を行った。また、人権作文に全校で取り組んだ。 ○自主的、実践的な活動ができるように生徒会活動を行った。	A
健やかな体	①保健体育科全単元を通して体力向上を図ることに重点をおき、自己の課題解決力を身に付けられるようにします。 ②体力・運動能力調査の結果分析等に基づき「体育・健康プラン」の改善を図ります。 ③保健体育で学習したことを基に、自らの健康や安全を自ら守ることのできる生徒の育成を目指します。	○保健体育の授業を通して、自己の課題解決力を身に付けられるように授業を展開した。 ○体力・運動能力調査の結果分析等に基づき「体育・健康プラン」の改善を図った。 ○保健体育で学習したことを基に、自らの健康や安全を自ら守ることのできるように支援した。	B
公共心と社会参画 未来を開く志	①「横浜の時間」の理念に基づいた校外学習・キャリア教育・学校行事などの取組をより一層進めます。 ②課題学習への取組を通して、主体的に学ぶ力を身に付けられるようにします。 ③地域について学びを深めたり地域の行事等に参加したりする中で、社会や地域でよりよく生きる力を培います。	○校外学習への取組では、総合的な学習の時間を核として、各教科との関連を重視した学習活動を取り入れた。 ○探究のプロセスを意識した活動を行い、生徒の主体的に学ぶ力を伸ばすことができた。 ○地域について学ぶことで、社会や地域でよりよく生きようとする態度を育成した。	B
いじめへの対応	①アンケートの活用、定期的な教育相談や状況に応じた相談活動の充実、スクールカウンセラーの効果的な活用を図り、課題や問題の早期発見、早期対応、早期解決に努めます。 ②生徒の自己肯定感や他者への思いやりを育む支援を行います。	○毎月のアンケートや、YPアセスメントの実施により、生徒の実態把握や課題や問題の早期発見に努めた。また、スクールカウンセラーや外部機関との連携を図った。 ○教師の傾聴や前向きな声掛けにより、生徒の自己肯定感や他者への思いやりを育む支援を行った。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①キャリアステージに応じた目標設定を行い、目標の実現を目指して研修・実践を行い、次のステージにつなげます。 ②行事をはじめ校務分掌を中堅以上の職員と若手職員による組み合わせで担当し、校務のマネジメントや実務に取り組む活動をを通して育成能力を高めます。 ③校内グループウェアを有効活用し情報の共有を速やかにし、仕事の合理化を図り、働き方改革を進めます。	○充実した校内授業研・特別支援研修を行い教師の指導力向上につなげた。 ○安心安全な学校教育のために、校長のリーダーシップのもと組織をあげて様々な活動を工夫して実践した。 ○経験、健康状態、立場、役割等が多様な教職員が力を合わせて補い合い危機感を乗り越えているようにした。	B
環境教育	①定期的な安全点検と迅速な修理修繕を行い、事故の未然防止を図るとともに、効果的で充実した学習環境・教育環境を整えます。 ②生徒会活動と連携した環境活動の推進をよりいっそう進め、現代社会の環境問題への関心を高め、実践力を育てます。	○安全点検を定期的に行い、安全に生活できるように学習環境・教育環境を整えることが出来た。 ○美化委員会を中心に校内外の環境美化活動を推進することが出来た。	B
地域連携・学校運営協議会	①説明会や懇談会を活用し、学校と保護者・地域の方々との相互理解に努めます。 ②学校便りやHPを活用し、情報を積極的に発信します。総合的な学習の時間等における地域人材を活用します。 ③可能な範囲で地域の方々に参画します。学校運営協議会における学校関係者評価等もふまえ、地域とのつながりや連携を大切にした教育活動を推進し、総合的な学習の時間において地域人材を活用します。	○できる限り対面での説明会や懇談会を通し、保護者・地域の方々との相互理解を深め、授業参観も密にならぬよう工夫しながら実施することが出来た。 ○職業講話では地域の方々に来ていただき有意義な体験をすることが出来た。	B
特別支援教育	①一人ひとりのニーズに合わせた支援の実践に努めます。 ②教職員間の情報共有を更に深め、職員全体がチームとして支援にあたります。 ③特別支援室での支援や人材の活用について一層の充実を図ります。	○毎月の支援委員会において生徒の実態に即した支援の検討をおこない、実践につなぐことができた。 ○学校チームとしての支援をおこなうためにアセスメントと支援情報を一元化し、活用することができた。 ○地域コーディネーターと連携し、支援室運営の拡充を図った。	A
生徒指導	①互いの人権を尊重し、思いやりのある生徒の育成を図り、めくもりのある生徒指導の実践に努めます。 ②教職員間の情報の共有を大切にしながらチームとして組織的に取り組みます。 ③学級や学年、部活動等多様な集団において、他者との触れ合いを大切にし、規範意識や自己肯定感や課題解決能力を高めていきます。	○各種アンケートを毎月実施し、生徒の心情理解に努めることができた。また、年三回の定期的な教育相談にとどまらず、アンケート結果をもとに気になる生徒には随時面談を行いきめ細かな声掛けができた。 ○毎朝の指導部報告会と職員会議で全体との情報共有ができた。	A
ブロック内評価後の 気付き	○コロナ感染予防のガイドラインが変わり、小学生に向けての授業参観や生徒会企画の交流会を行うことが出来た。また、部活動の体験なども実施できた。交流や部活動体験を通して、中学生の生き生きとした動きが見られ、また小学生も喜んでいる場面を見て、これらの小中の交流の大切さを改めて再認識した。 ○教員同士の小中交流が出来なかったが、来年度はこれらも交流を行い児童生徒の情報交換や教育課程のつながりなど改めて確認していきたい。		
学校関係者 評価	○今回も実施することは出来なかったが、今後、地域の防災訓練や地域運動会の参加など地域とのつながりをつくれるとよい。 ○学校運営協議会では小学校、中学校の取組が発表され、それぞれの課題等確認された。本校では保護者アンケートの回収率の低さが課題となりコロナでの保護者の来校機会の少なさが原因であろうと説明された。来年度は保護者の来校機会をコロナ前に戻すことでアンケートの回収率を高めるとよい。		
中期取組 目標 振り返り	○コロナ禍と呼ばれる情勢下で、例年通りに行えることが少なかったが、感染防止対策を講じつつ、可能な限りの効果があげられるよう、対人での取組を多く取り入れることが出来た。保護者の来校機会を増やしていくことが今後の課題である。 ○新学習指導要領に基づく、新たな教育課程編成や、各教科等の指導と評価の年間計画の改善等に向けて、職員研修を継続している。		

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①全教科を通して個に応じた指導を展開し基礎学力の定着強化を図ります。 ②グループ学習や課題解決学習を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。 ③行事などを通して、主体的に探究活動に取り組む姿を育てます。 ④授業づくりアンケートを実施し、その結果を分析して授業改善を図ります。	①全教科単元ごとに振り返り等を行い、各生徒の状況を把握し指導することで、基礎学力の定着を図ることができた。 ②各教科ICT機器等を活用しながら、グループ活動を取り入れて学習することで、思考力、判断力、表現力の向上を図ることができた。 ③各行事の目標を決める場合に探究活動として取り組めるよう目標を定めた。 ④全教科の授業評価アンケートを実施し、授業改善につなげた。	A
豊かな心	①生徒の実態と発達段階を考慮しながら、道徳の授業計画・指導計画を立て、指導方法を工夫して効果的な学習を進めます。 ②人権教育の推進のために職員研修の充実を図り、人権講演会や人権作文に全校で取り組みます。 ③ブロック内の二つの小学校と連携を図りながら、系統性や継続性のある人権教育の推進を図ります。 ④生徒会活動や行事運営を通して、自主的、実践的な活動ができる生徒の育成を目指します。	①生徒の実態と発達段階に応じた道徳授業を計画し、職員研修を通じて指導方法を工夫して指導をおこなった。 ②生徒の実態に応じた人権教育を計画し、国際ラウンジの館長を招き、全校講演会を実施した。 ③系統性のある人権教育をより充実させていくために、引き続き小中連携を図っていく。 ④自主的、実践的な活動ができるように生徒会活動を行った。	A
健やかな体	①保健体育科全単元を通して体力向上を図ることに重点をおき、自己の課題解決力を身に付けられるようにします。 ②体力・運動能力調査の結果分析等に基づき「体育・健康プラン」の改善を図ります。 ③保健体育で学習したことを基に、自らの健康や安全を自ら守ることのできる生徒の育成を目指します。 ④食育推進校として、食に関する指導を通して、生涯にわたる健康を考えることのできる生徒の育成を目指します。	①生徒の実態と発達段階に応じた道徳授業を計画し、職員研修を通じて指導方法を工夫して指導をおこなった。 ②生徒の実態に応じた人権教育を計画し、国際ラウンジの館長を招き、全校講演会を実施した。 ③系統性のある人権教育をより充実させていくために、引き続き小中連携を図っていく。 ④自主的、実践的な活動ができるように生徒会活動を行った。	A
公共心と社会参画 未来を開く志	①「横浜の時間」の理念に基づいた校外学習・キャリア教育・学校行事などの取組をより一層進めます。 ②課題学習への取組を通して、主体的に学ぶ力を身に付けられるようにします。 ③地域について学ぶことで、社会や地域でよりよく生きようとする態度を育成した。	①感染防止に影響されることなく、各行事が実施され、各教科横断的な視点をもって行事に向けての取り組みを行った。 ②探究的な活動としての意識を持たせ、課題を協働的に解決することで、主体的に取り組める力を高めた。 ③キャリア学習で、身近な地域で暮らし働く方々から、講話を受け、社会や地域について目向ける機会を作った。	A
いじめへの対応	①アンケートの活用、定期的な教育相談や状況に応じた相談活動の充実、スクールカウンセラーの効果的な活用を図り、課題や問題の早期発見、早期対応、早期解決に努めます。 ②生徒の自己肯定感や他者への思いやりを育む支援を行います。	①Y-Pアセスメント・生活アンケート・いじめアンケートを確実に実施し活用することで、問題の早期発見と、早期対応につなげることができた。また、教育相談の充実やSG等との連携強化によって早期解決に努めた。 ②傾聴や前向きな声掛け、横浜プログラムの実施などを通して、生徒の自己肯定感や思いやりを育む支援をおこなった。さらなる充実を図っていく。	A
人材育成・組織運営(働き方)	①キャリアステージに応じた目標設定を行い、目標の実現を目指して研修・実践を行い、次のステージにつなげます。 ②行事をはじめ校務分掌を中堅以上の職員と若手職員による組み合わせで担当し、校務のマネジメントや実務に取り組む活動をを通して育成能力を高めます。 ③校内グループウェアを有効活用し情報の共有を速やかにし、仕事の合理化を図り、働き方改革を進めます。	○充実した校内授業研・特別支援研修を行い教師の指導力向上につなげた。 ○安心安全な学校教育のために、校長のリーダーシップのもと組織をあげて様々な活動を工夫して実践した。 ○職員室内での普段の会話においても、中堅以上の職員が若手職員へ適切なアドバイスを行うことができた。	B
環境教育	①定期的な安全点検と迅速な修理修繕を行い、事故の未然防止を図るとともに、学習環境・教育環境を整えます。 ②生徒会活動と連携した環境活動の推進をよりいっそう進め、現代社会のSDGsへの関心を高め、実践力を育てます。	○美化委員会を中心に校内外の環境美化活動を通して、過ごしやす環境づくりを実現した。	B
地域連携・学校運営協議会	①説明会や懇談会を活用し、学校と保護者・地域の方々との相互理解に努めます。 ②学校便りやHPを活用し、情報を積極的に発信します。総合的な学習の時間等における地域人材を活用します。 ③可能な範囲で地域の方々に参画します。学校運営協議会における学校関係者評価等もふまえ、地域とのつながりや連携を大切にした教育活動を推進し、総合的な学習の時間等において地域人材を活用します。	○職業講話では地域の方々に来ていただき有意義な体験をすることが出来た。 ○できる限り対面での説明会や懇談会の実施、学校便りやHPを活用により、学校の様子を発信することができた。	B
特別支援教育	①一人ひとりのニーズに合わせた支援の実践に努めます。 ②教職員間の情報共有を更に深め、職員全体がチームとして支援にあたります。 ③特別支援室での支援や人材の活用について一層の充実を図ります。	①Y-Pアセスメント・生活アンケートを確実に実施し活用することで、より丁寧な教育相談と支援の実践につなげることができた。 ②専門機関や保護者との連携を強め、保護者とのつながりを重視した支援をおこなった。 ③支援員等の人材を活かしながら、学校チームとして特別支援教室の運営の充実を図った。	A
生徒指導	①互いの人権を尊重し、思いやりのある生徒の育成を図り、めくもりのある生徒指導の実践に努めます。 ②教職員間の情報の共有を大切にしながらチームとして組織的に取り組みます。 ③学級や学年、部活動等多様な集団において、他者との触れ合いを大切にし、規範意識や自己肯定感や課題解決能力を高めていきます。	①自他を認め合い思いやる生徒の育成を図る指導・支援の実践を、学校チームとしておこなった。 ②情報共有を丁寧におこない、学校チームとして組織的に指導・支援をおこなった。 ③人との触れ合いの中で規範意識を高める指導をおこなった。自己肯定感や課題解決能力を高める指導・支援の充実をさらに図っていく。	A
ブロック内評価後の 気付き	○数年ぶりにブロック内の小学校で授業研を行い、9年間で育成を目指す資質・能力で「自らすすんで学び、高めようとする力」を各教科で確認することができた。また、昨年度、小学校を卒業し、今年度中学校に入学した生徒の情報交換をして、小中学校のスタンダードについて確認することができた。		
学校関係者 評価	○今回も実施することは出来なかったが、今後、地域の防災訓練や地域運動会の参加など地域とのつながりをつくれるとよい。 ○学校運営協議会では小学校、中学校の取組が発表され、それぞれの課題等確認された。小中学校ともに力を入れている「あいさつ」歌声については、地域の方々もいろいろな場面で接する機会があり、評価していただけだ。		
中期取組 目標 振り返り	○新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行され、授業ではグループワークが、再開されたり、学校行事でも大きな声援のある体育祭や体育館に全校生徒が入ったの合唱今コンクールが再開されました。 ○新学習指導要領に基づく、新たな教育課程編成や、各教科等の指導と評価方法が充実してきた。さらに職員研修を継続して研磨していきたい。		

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①全教科を通して個に応じた指導を展開し基礎学力の定着強化を図ります。 ②グループ学習や課題解決学習を通して思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。 ③行事などを通して、主体的に探究活動に取り組む姿を育てます。 ④授業づくりアンケートを実施し、その結果を分析して授業改善を図ります。	①生徒の実態と発達段階を考慮しながら、道徳の授業計画・指導計画を立て、指導方法を工夫して効果的な学習を進めます。 ②人権教育の推進のために職員研修の充実を図り、人権講演会や人権作文に全校で取り組みます。 ③ブロック内の二つの小学校と連携を図りながら、系統性や継続性のある人権教育の推進を図ります。 ④生徒会活動や行事運営を通して、自主的、実践的な活動ができる生徒の育成を目指します。	
豊かな心	①生徒の実態と発達段階を考慮しながら、道徳の授業計画・指導計画を立て、指導方法を工夫して効果的な学習を進めます。 ②人権教育の推進のために職員研修の充実を図り、人権講演会や人権作文に全校で取り組みます。 ③ブロック内の二つの小学校と連携を図りながら、系統性や継続性のある人権教育の推進を図ります。 ④生徒会活動や行事運営を通して、自主的、実践的な活動ができる生徒の育成を目指します。	①生徒の実態と発達段階に応じた道徳授業を計画し、職員研修を通じて指導方法を工夫して指導をおこなった。 ②生徒の実態に応じた人権教育を計画し、国際ラウンジの館長を招き、全校講演会を実施した。 ③系統性のある人権教育をより充実させていくために、引き続き小中連携を図っていく。 ④自主的、実践的な活動ができるように生徒会活動を行った。	
健やかな体	①保健体育科全単元を通して体力向上を図ることに重点をおき、自己の課題解決力を身に付けられるようにします。 ②体力・運動能力調査の結果分析等に基づき「体育・健康プラン」の改善を図ります。 ③保健体育で学習したことを基に、自らの健康や安全を自ら守ることのできる生徒の育成を目指します。 ④2年目の食育推進校として、食に関する指導を通して、障害にわたる健康を考えることのできる生徒の育成を目指します。	①生徒の実態と発達段階に応じた道徳授業を計画し、職員研修を通じて指導方法を工夫して指導をおこなった。 ②生徒の実態に応じた人権教育を計画し、国際ラウンジの館長を招き、全校講演会を実施した。 ③系統性のある人権教育をより充実させていくために、引き続き小中連携を図っていく。 ④自主的、実践的な活動ができるように生徒会活動を行った。	
公共心と社会参画 未来を開く志	①「横浜の時間」の理念に基づいた校外学習・キャリア教育・学校行事などの取組をより一層進めます。 ②課題学習への取組を通して、主体的に学ぶ力を身に付けられるようにします。 ③地域について学びを深めたり地域の行事等に参加したりする中で、社会や地域でよりよく生きる力を培います。	①感染防止に影響されることなく、各行事が実施され、各教科横断的な視点をもって行事に向けての取り組みを行った。 ②探究的な活動としての意識を持たせ、課題を協働的に解決することで、主体的に取り組める力を高めた。 ③キャリア学習で、身近な地域で暮らし働く方々から、講話を受け、社会や地域について目向ける機会を作った。	
いじめへの対応	①アンケートの活用、定期的な教育相談や状況に応じた相談活動の充実、スクールカウンセラーの効果的な活用を図り、課題や問題の早期発見、早期対応、早期解決に努めます。 ②生徒の自己肯定感や他者への思いやりを育む支援を行います。	①Y-Pアセスメント・アンケートの活用、定期的な教育相談や日々の丁寧な相談活動の充実、スクールカウンセラーの効果的な活用を図り、課題や問題の早期発見、早期対応、早期解決に努めます。 ②日々の学級経営や横浜プログラムの実践等を通して、自己肯定感や他者への思いやりを育む支援を行います。	
人材育成・組織運営(働き方)	①キャリアステージに応じた目標設定を行い、目標の実現を目指して研修・実践を行い、次のステージにつなげます。 ②行事をはじめ校務分掌を中堅以上の職員と若手職員による組み合わせで担当し、校務のマネジメントや実務に取り組む活動をを通して育成能力を高めます。 ③校内グループウェアを有効活用し情報の共有を速やかにし、仕事の合理化を図り、働き方改革を進めます。	①キャリアステージに応じた目標設定を行い、目標の実現を目指して研修・実践を行い、次のステージにつなげます。 ②安心安全な学校教育のために、校長のリーダーシップのもと組織をあげて様々な活動を工夫して実践した。 ③職員室内での普段の会話においても、中堅以上の職員が若手職員へ適切なアドバイスを行うことができた。	
環境教育	①定期的な安全点検と迅速な修理修繕を行い、事故の未然防止を図るとともに、学習環境・教育環境を整えます。 ②生徒会活動と連携した環境活動の推進を進めながら、SDGsへの関心をもたせる。	①定期的な安全点検と迅速な修理修繕を行い、事故の未然防止を図るとともに、学習環境・教育環境を整えます。 ②生徒会活動と連携した環境活動の推進を進めながら、SDGsへの関心をもたせる。	
地域連携・学校運営協議会	①説明会や懇談会を活用し、学校と保護者・地域の方々との相互理解に努めます。 ②学校便りやHPを活用し、情報を積極的に発信します。総合的な学習の時間等における地域人材を活用します。 ③可能な範囲で地域の方々に参画します。学校運営協議会における学校関係者評価等もふまえ、地域とのつながりや連携を大切にした教育活動を推進し、総合的な学習の時間等において地域人材を活用します。	①説明会や懇談会を活用し、学校と保護者・地域の方々との相互理解に努めます。 ②学校便りやHPを活用し、情報を積極的に発信します。総合的な学習の時間等における地域人材を活用します。 ③可能な範囲で地域の方々に参画します。学校運営協議会における学校関係者評価等もふまえ、地域とのつながりや連携を大切にした教育活動を推進し、総合的な学習の時間等において地域人材を活用します。	
特別支援教育	①一人ひとりのニーズに合わせた支援の実践に努めます。 ②教職員間の情報共有を更に深め、職員全体がチームとして支援にあたります。 ③特別支援室での支援や人材の活用について一層の充実を図ります。	①アセスメントを丁寧におこない、一人ひとりの実態に即した支援の計画と実践に努めます。 ②専門機関や保護者との連携を含め、学校チームとしての支援の力を高めます。 ③特別支援教室における支援について学校チームで検討し、生徒の実態と目標に応じた支援の充実にも努めます。	
生徒指導	①互いの人権を尊重し、思いやりのある生徒の育成を図り、めくもりのある生徒支援の実践に努めます。 ②アセスメントや教職員間の情報共有を大切にしながら、チームとして組織的に指導・支援に取り組みます。 ③多様な集団活動において関わり合う場面を大切にし、ポジティブ支援を通して自己肯定感や課題解決能力を高めていきます。	①互いの人権を尊重し、思いやりのある生徒の育成を図り、めくもりのある生徒支援の実践に努めます。 ②アセスメントや教職員間の情報共有を大切にしながら、チームとして組織的に指導・支援に取り組みます。 ③多様な集団活動において関わり合う場面を大切にし、ポジティブ支援を通して自己肯定感や課題解決能力を高めていきます。	
ブロック内評価後の 気付き			
学校関係者 評価			
中期取組 目標 振り返り			